

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	佐藤 美恵
研究課題	擦式手指消毒薬を用いた手指衛生における看護学生の消毒薬使用量の検討					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	佐藤美恵	看護学科・准教授	基礎看護学	総括・データ収集・分析	
	分担者	高林範子 佐々木新介 山口三重子	看護学科・助教 看護学科・准教授 看護学科・教授	基礎看護学 基礎看護学 基礎看護学	データ収集・分析 研究全体のアドバイス 研究全体のアドバイス	
研究実績の概要	<p>【目的】</p> <p>擦式手指消毒薬を用いた手指衛生における看護学生の手指消毒薬使用量を明らかにする。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象：対象はA大学看護学科の学生40名である。 方法：擦式手指消毒薬を用いて手指消毒を行ってもらい、消毒薬使用量の計測、消毒前後の手掌の検体採取を行った。擦式手指消毒薬はヒビソフト®消毒液 0.2%を用いた。検体の採取と培養には一般細菌用の寒天培地を用いた。採取した検体は室温で1週間培養し、消毒後のコロニー数を数えた。 分析方法：分析は、消毒薬使用量と消毒後のコロニー数との相関を、Spearmanの相関係数を用いて検討した。また、消毒薬使用量および消毒後のコロニー数について、1年生と2~3年生とを、Mann-WhitneyのU検定を用いて比較した。有意水準は5%とした。 倫理的配慮：対象者には、本研究の目的と方法を説明し、研究への協力の可否は自由意思に基づくこと、協力しなくても不利益はないことを説明した。本研究は、岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施した（No.17-70）。 					

※ 次ページに続く

<p>研究実績の概要</p>	<p>【結果】</p> <p>対象者は、1年生が20名、2～3年生が20名の計40名であった。寒天培地での培養結果の一例を図に示す。すべての対象者で消毒前より消毒後のコロニー数が減少していた。消毒薬使用量と消毒後のコロニー数には有意な負の相関が認められた ($r=-0.523$、$p=0.001$)。消毒薬使用量は、1年生が $1.39 \pm 0.61\text{g}$、2～3年生が $0.91 \pm 0.35\text{g}$ で、1年生の方が有意に多かった ($p=0.005$)。消毒後のコロニー数は、1年生が 0.6 ± 0.9 個、2～3年生が 3.9 ± 5.7 個で、1年生の方が有意に少なかった ($p=0.010$)。</p> <p>【考察】</p> <p>擦式手指消毒薬を用いた手指衛生では、手の表面全体を消毒するためには2～3mL (今回使用した消毒薬では約2.2～3.3g)の消毒薬が必要とされている。本研究対象者の消毒薬使用量はこれより少なかった。本研究の対象者は、1年生の時に手指衛生の方法を学習している。1年生より2～3年生の消毒薬使用量が少なく、消毒後のコロニー数が多かったことから、学習時に一度は理解し獲得した知識や技術が定着していないと考えられる。2年生以降の演習科目や臨地実習のオリエンテーションなどの機会に、正しい手指衛生について復習し、確実な手指衛生を行えるよう、意図的にかかわっていきたいと考える。</p> <div data-bbox="965 280 1401 571" style="text-align: center;"> <p>消毒前 消毒後</p> </div> <p>図 消毒前後の培養結果の一例</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>なし</p>